

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（3月）

留学先：東呉大学

氏名：大戸彩未

### はじめに

こんにちは、国際地域学部・国際地域学科・グローバルアプローチ3年の大戸彩未です。2月から7月までの1学期間、台湾の東呉大学に留学することになりました。半年という短い期間ではありますが、中国語力の向上と日本語教育についての知識を深めることを目標に頑張っていきたいと思います。今回の報告書では、留学最初の一か月間の学校生活や普段の様子について紹介します。

### 留学生活スタート

台湾に来てからは、留学生寮の4人部屋に住んでいます。ルームメイトは韓国やフランスなど、他の国からの留学生も一緒に暮らしています。最初のうちはみんな英語で会話をしていましたが、今では覚えてきた中国語を使って話してみたり、それぞれの国の言語を教えあったりしています。寮は大学のキャンパス内にあり、食堂・コンビニ・パン屋さんなどお店もたくさんあるので便利です。日本製の日用品やお菓子も売っています。ただ、キャンパスが山の上にあるため坂道が多く、いろいろな施設があって広くて便利な分、歩いて移動するのが少し大変です。



### 授業の様子

授業時間は福井大学のような90分で1コマではなく、1つの授業が100分か150分で、50分ごとに10分間の休み時間があります。私は中国語の授業を週に5コマと、専門科目を11コマ取っています。中国語の授業は説明もほとんど中国語で行われます。2年生の時に第二外国語として中国語を専攻していましたが、リスニングは苦手だったため初めのうちは何回も聞き返していました。しかし、日本での授業とは違い、スピーキング中心に練習していく授業形式なので、少しずつ話す・聞くことが出来るようになってきているのを感じます。専門科目の授業は、全て英語開講科目を履修しています。英語開講科目は留学生だけでなく台湾の学生も一緒に受けているので、現地の友達をたくさん作ることが出来ます。授業はグループディスカッションや生徒によるプレゼンテーションで進められることが多いです。

### 休日の過ごし方

日本にいるときと違ってアルバイトをする時間がない分、休日は毎週自由に過ごす

ことが出来ます。私は台湾に来るのはこの留学が初めてなので、週末はよく友達と観光や買い物やカフェ巡りをして楽しんでいます。3月は日本では春休みだったこともあり、どこに行っても日本人の観光客がいました。バスやMRTという電車など交通機関はとても便利なので、故宮博物館や九份、士林夜市などいろいろなところへ行くことができて楽しいです。しかし、同時に自分の中国語力不足を実感しました。屋台で



食べ物を注文するときに上手く伝えられなかったり、レジや受付の人の話を聞き取れなかったりすることが何回もありました。学校での授業以外にも、日常生活の中での会話や街で見た看板の単語などを自分で調べて学習していくようにしています。

### 日本語でのコミュニケーション

東呉大学には日本語学科があるため、日本語を学習している学生がたくさんいます。また、日本語学科以外でも日本語を少し話せる人はたくさんいます。最初のオリエンテーションや寮の説明会などはほとんど英語か中国語で行われていましたが、中には日本語で説明しようとしてくれる人もいました。私は日本語学科のバレーボール部に参加しましたが、部員のほとんどが日本へ留学したことがあるらしく、練習中もよく日本語で話しかけてきてくれます。バレーボール関係の言葉を日本語と中国語で何というか教えあったり、お互いの国の文化や生活の様子について伝えたりしながら会話を楽しんでいます。私は日本語教育に興味があるので、実際に日本語学習者の声を聞きながらいろいろなことを学んでいきたいです。

### イベントへの参加

台湾に来てからの初めの一か月の印象として、イベントがたくさんあるなということを感じました。旧正月やランタンフェスなど街ではたくさんのオブジェなどを見かけました。東呉大学では留学生のウェルカムパーティーや寮のパーティー、大学祭、カードゲーム大会、陶芸体験などいろいろなイベントに参加しました。他にも学科ごとによくイベントを開いていて、大学内はいつも楽しそうな雰囲気です。これらのイベントへの参加を通して、普段はあまり関わることのない現地の学生とも交流をすることができました。留学生用のイベント以外はすべて中国語で行われるのでアナウンスが理解できず少し戸惑うこともありましたが、現地の学生と中国語で会話をする練習ができ、良い経験になりました。これからもいろいろな活動に積極的に参加していきたいです。

